

授業概要

私たちの身の回りには、さまざまな企業の商品やサービス、新たな研究&開発などたくさんの企業情報があふれています。多くは新聞・雑誌やテレビ・ラジオ、インターネットなどのメディアや家族や友人などを通じて私たちに届いています。そんな企業の情報の中で、本講義は株主や投資家など金融市場に向けた情報開示を取り上げます。金融商品取引法などによる法的開示からアニュアルレポートや統合報告書などの任意開示、IRサイトやソーシャルメディア、そしてESG(環境・社会・ガバナンス)情報やSDGs情報まで、具体的に追って、企業情報が拡散する仕組みを理解します。そして株主・投資家など市場の対応について学びます。

授業計画

第1回	ガイダンス	①宣伝と広報の違い ②投資家向け広報の始まり
第2回	企業の発信情報	：誰に、何を、どのように発信し、その効果をどのように知るのだろう (1) 印刷情報とデジタル情報
第3回		(2) 法的規制の情報発信/任意の情報発信
第4回	(I) 法的開示	：法的な制度のなかで、開示しなければならない情報を知る (1) 有価証券報告書と決算短信
第5回		(2) 財務諸表と非財務情報
第6回		(3) 決算説明会資料、コーポレートガバナンス報告書
第7回		(4) 株主総会：議決権行使書/事業報告
第8回	(II) 任意開示	：各社の裁量で情報を発信するいろいろな取り組みを知る (1) 株主通信
第9回		(2) 会社案内/アニュアルレポート
第10回		(3) 統合報告書
第11回	(III) デジタル情報の時代	：印刷からデジタルに移行する時代の情報開示を知る (1) 企業ウェブサイト・IRサイトの展開
第12回		(2) モバイルとソーシャルメディア
第13回	(IV) 株主・投資家とはだれか	(1) 自分のお金か、他人のお金か？
第14回		(2) 株主・投資家に学ぶ企業情報 ～ステewardシップの役割～
第15回	(V) ESG (環境・社会・ガバナンス)情報	(1) ESG 情報、SDGs 情報を求める動き
第16回		(2) 2つのコード (コーポレートガバナンス、ステewardシップ)

到達目標

企業の株主・投資家向け情報開示の活動、情報拡散の仕組みを学んで、金融・証券分野に対する確かな知見を習得する。

履修上の注意

授業では、毎日の経済や金融・証券の動きを実例として取り上げるので、日々の経済や企業に関連する報道に関心を持ちたい。

予習・復習

企業の情報開示活動をよく理解するために、配布資料や参照テキストの予習・復習は欠かせない。

評価方法

受講不良者は「不可」の評価とします。評価は授業中の議論やレポート(60点)、試験(40点)などから総合的に判断します。授業への積極的な参加(積極的な発言など)は加点の対象です。

テキスト

「新版 イチから知る! IR実学」(米山徹幸 日刊工業新聞)
また講義向けに配布資料を用意します。もちろん、参照する図書や文献も、授業で適宜、紹介します。